

日本ケベック学会第2回西日本研究会

*本研究会は金城学院大学キリスト教文化研究所主催のシンポジウムとして企画されたものを日本ケベック学会が共催するものです。

社会における脱宗教(ライシテ)について考える—フランス、ベルギーそしてケベック

- ◆日時・場所：2017年1月21日(土) 午後2時～午後6時
金城学院大学サテライト(名古屋市中区錦3丁目15-15 CTV 錦ビル 4F)
<http://www.kinjo-u.ac.jp/pc/inst/38.html>
- ◆シンポジウムの内容と発表者および発表題は次頁を参照
- ◆参加費：無料
- ◆参加申し込み：会場の収容人員に制限(33名)がありますので、事前に次のURLからお申し込みください。
<https://goo.gl/forms/sTd2dx0oAIzsqzHF3>
制限人数に達した時点で参加をお断りすることになります。また、申し込みが制限人数に達した場合、お申し込みのない方にはご参加いただけません。(このサイトでの申し込みがうまく行かない場合には、問い合わせ先にメールをお送りください。その場合、返信をご確認いただきますようお願いいたします。)
- ◆懇親会：シンポジウム終了後懇親会をいたします。会場はシンポジウム会場周辺で、次の通りです。
「韓式酒家 ハングル・タイガー」
<https://tabelog.com/aichi/A2301/A230103/23005492/>
参加費は5000円を予定しています。懇親会参加もシンポジウム参加と同じURLからお申込みいただけます。
- ◆問い合わせ先：金城学院大学キリスト教文化研究所(担当 尾崎)
電子メール ccoffice@kinjo-u.ac.jp 代表電話 052-798-0180

シンポジウムの内容と発表者および発表題

西洋における代表的なフランス語圏の国と地域である上記3つは社会の脱宗教を志向するが、その姿は異なり、抱える課題もさまざま、イスラームに対する態度についても、立場を異にする。フランス、ベルギー、ケベックを、特に社会において宗教が顕在するのをどの程度受容するのかという点を中心として比較する。

【発表者および発表題】

- 発表1 立花英裕（早稲田大学法学学術院教授）
「ライシテの起源—イタリア・ルネサンスを中心に」
- 発表2 稲永祐介（大阪市立大学 / CNRS-GSRL 非常勤研究員）
「フランスの政治文化としてのライシテ：近代の統治技法、あるいは共和国のイデオロギー？」
- 発表3 見原礼子（長崎大学 多文化社会学部准教授）
「ベルギーのライシテと宗教多元性—公教育における二つの論争から」
- 発表4 丹羽卓（金城学院大学キリスト教文化研究所教授）
「ケベックの『開かれたライシテ』——自由主義と共和主義の狭間で」
- 発表5：伊達聖伸（上智大学外国語学部准教授）
「フランス、ベルギー、ケベックのライシテを比較する—成り立ちと現在の課題から」